

○議長（前原英石） ただいまの出席議員数は7人です。定足数に達していますので、休憩前に引き続き会議を開きます。

古川元規議員。

○2番（古川元規） 2番古川元規です。

それでは、私からは、通告のとおり、農地の復旧支援についてと題しまして、質問をさせていただければというふうに思います。

能登半島地震によりまして、ご存じのとおり、村内の農地、また農道、用排水におきましても、液状化や地盤の沈下、ブロック等の破損などが見られておりますが、ほとんどの圃場が、農業者の尽力もありまして、何とか無事に補修を経て、今、田植が終わって、そしてまた、農作業のほうも一段落しているタイミングかなというふうに思っております。

一方、実際に用水に水を流して、田んぼに水を張ってみると、液状化した地域を中心に、想像以上に農地、これは圃場だけではなくて、用排水等も含めましてなんですけれども、が変動しているということが分かってきております。

ある程度は個別の修繕で対応していくしかないのかなというふうに思いますし、実際そのように対応できるかと思うんですけれども、極端な地盤の沈下などによって、通常の均平を取ることが困難になっている圃場もございます。

ご存じかと思いますが、圃場の均平が取れなくなると、水位を一定に保つことができなくなり、水没する稲があったり、また逆に、水が張れなくなると農薬等が効きにくくなったり、干せ上がったり等々、水稻をつくるに当たっても、なかなか品質のいい、また収量を取る、そういうことが難しくなるという現状がございます。

特に、圃場はともかくとして、農道や用排水に係る農地の復旧ということに関しましては、農業者が個別に対応するというのは困難ではないかというふうに考えられます。

こちらに対して、何か村として支援を検討してはいかがかなというふうに思っております。

また、地盤の沈下以外でも、ブロックの破損箇所も多く見られます。こちらについても、用排水等に係る部分のブロック等がひび割れして沈下しているというところが、これは液状化をした竹内地区以外でも、ちらほらと見られるなというふうに思っております。

こちら、ずっと放置しておくと、そこから雨水等が浸透していったら、さらにその被

害が拡大し、もっと大きな破損状況になっていくのではないかなというふうに思いますし、また先日も久々のアラームがありまして、地震がありましたが、同じような規模の地震があったときに、さらなる被害の拡大ということも想像に難くないところでございます。

今各地区で多面的機能支払交付金などでそのような対応をしていく形にはなるかと思うんですけれども、限りのあるこの交付金でございますので、こちらだけで、どうしても、なかなかその対応が難しいというケースも当然出てくるのではないかなというふうに考えられます。

そちらに対しましても、何らかの支援ができれば、農業者を勇気づける施策になるのではないかなというふうに思われます。

農業者が今後も安心して農業に従事できるよう、また舟橋村の水田環境を維持していくためにも、今期の稲刈りが終了した秋以降の地震被害へのこの復旧につきまして、村として何らかの形で支援をするべきであるというふうに考えますが、当局の考えをお聞かせください。

○議長（前原英石） 田中生活環境課長。

○生活環境課長（田中 勝） 2番古川議員のご質問にお答えさせていただきます。

議員ご指摘のとおり、1月1日の能登半島地震により、村内でも被害が確認されております。

国重地内では、用水路の上流である立山町浅生地区において、ひび割れや液状化が確認されました。地元の要望を受け、受益面積がかぶる富山市さんと共同で対応を検討し、早期に仮復旧をしていただきました。今現在、無事田植を終えたところでございます。

今後もその地区の用水を注視し、他の用水部分についても、富山市さんと合同で災害復旧支援事業等に取り組んでまいりたいと考えております。

一方、竹内地区においては、液状化と見られる農地が数枚あり、水路及び農道でも影響が確認されております。2月の段階で現地確認をしたとき、専門とされる方々に見ていただきましたが、これといった対応方法がなく、耕作者との話合いで1期作付を行うことといたしました。

同じ2月初旬頃、耕作者自らブロックの破損修繕、波板畦畔の設置をされていました。その負担額については多少の助成を検討してまいります。

実際トラクターで起こされ、水を張られた田を見に行くと、農地が平らではなく、水

に隠れる農地と出る農地があり、苗を育てることは大変難しいと感じておりました。今現在、用水を止めて工事ができないため、稲刈り後に支援策を検討してまいりたいと考えております。

ただ、地元負担もかかってきますので、まず初めに、地権者、耕作者及び生産組合で話し合っていていただき、話がまとまれば、役場当局として相談に乗り、一緒に支援策を検討してまいりたいと考えております。

秋になれば、他の地区での復旧事業の情報も入ってくると思われます。今まで経験したことがなく、対応するスピード感が鈍いように思われますが、村当局としては、今までどおり農家に寄り添ってまいりますので、ご理解のほどよろしくお願い申し上げ、答弁とさせていただきます。